

令和 6 年度水質測定結果の概況

I 公共用水域

令和 6 年度水質測定計画に基づき実施した公共用水域の測定結果の概況は、次のとおりでした。

1 健康項目（カドミウム、全シアンなど 27 項目）

河川 19 地点、海域 10 地点の全ての測定地点で環境基準を達成していました。（前年度 100％）

2 生活環境項目

河川の生物化学的酸素要求量（BOD）については、類型指定水域（35 水域）における環境基準達成率は 71％（25 水域）でした。（前年度 66％）

海域の化学的酸素要求量（COD）については、類型指定水域（7 水域）における環境基準達成率は 43％（3 水域）でした。（前年度 43％）

全窒素及び全磷に係る環境基準については、類型指定水域（4 水域）全てで環境基準を達成しました。（前年度：全窒素 100％、全磷 100％）

水生生物保全項目に係る環境基準については、類型指定水域（5 水域）全てで環境基準を達成しました。（前年度 100％）

表 1－1 環境基準達成水域／環境基準あてはめ水域の推移

		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
河川	BOD	22／35 (63%)	20／35 (57%)	21／35 (60%)	23／35 (66%)	25／35 (71%)
海域	COD	3／7 (43%)	2／7 (29%)	3／7 (43%)	3／7 (43%)	3／7 (43%)
	全窒素	4／4 (100%)	4／4 (100%)	4／4 (100%)	4／4 (100%)	4／4 (100%)
	全磷	3／4 (75%)	4／4 (100%)	4／4 (100%)	4／4 (100%)	4／4 (100%)

（注）（ ）内は環境基準に達成している水域の割合

表 1－2 環境基準の類型別の達成状況（令和 6 年度）の比較

香 川 県							
河 川	AA類型	A類型	B類型	C類型	D類型	E 類型	全水域
	—	10/13	7 /12	4 / 6	3 / 3	1 / 1	25/35
		(77%)	(58%)	(67%)	(100%)	(100%)	(71%)
海 域	A類型		B類型		C類型		全水域
	0/4		3/3		—		3/7
	(0%)		(100%)				(43%)
全 国（5年度の数值）							
河 川	AA類型	A類型	B類型	C類型	D類型	E 類型	全水域
	376/396	1224/1309	476/511	254/273	67/67	19/20	2416/2576
	(95%)	(94%)	(93%)	(93%)	(100%)	(95%)	(94%)
海 域	A類型		B類型		C類型		全水域
	175/260		183/213		117/117		475/590
	(67%)		(86%)		(100%)		(81%)

表2-1 河川 BODの環境基準達成状況

地区	河川数	類型	水域数	達成		水域数			令和5年度と令和6年度の年平均値の比較			
				年度	2	3	4	5		6		
東 讃	7	A	5		4	3	4	4	5	【改 善】 津田川 【やや改善】 湊川、与田川、鴨部川 【横 ば い】 馬宿川、番屋川、弁天川		
		C	2		1	1	1	1	1			
		小計	7		5	4	5	5	6			
高 松	10	A	2		1	1	1	1	1	【改 善】 香東川下流 【横 ば い】 牟礼川、春日川、新川、相引川、詰田川、御坊川、杣場川、香東川上流、本津川上流、本津川下流 【やや悪化】 摺鉢谷川		
		B	5		1	3	2	1	2			
		C				元～4 1	5～ 2	1	1		2	2
		D	～24 1	25 3	26～30 4	元～4 3	5～ 2	3	2		2	2
		E	～24 4	25 2	26～30 1	元～ 1		1	1		1	1
		小計	12		7	8	7	7	8			
中 讃	8	A	5		1	1	1	3	3	【やや改善】 金倉川 【横 ば い】 青海川、綾川、大東川上流、大東川下流、桜川 【やや悪化】 土器川、西汐入川 【悪 化】 弘田川		
		B	2		1	1	1	1	1			
		C	～5 1		6～ 2	1	1	1	1		1	
		D	～24 0	25～5 1		6～ 0	1	1	1		1	×
		E	～24 1	25～ 0		×	×	×	×		×	×
		小計	9		4	4	4	6	5			
西 讃	4	A	1		1	0	1	0	1	【やや改善】 高瀬川 【横 ば い】 財田川上流、財田川下流、一の谷川、柞田川		
		B	3		2	2	2	2	2			
		D	1		1	1	1	1	1			
		小計	5		4	3	4	3	4			
小 豆	2	B	2		2	1	1	2	2	【横 ば い】 伝法川、安田大川		
		小計	2		2	1	1	2	2			
合計	31		35		22	20	21	23	25			
環境基準達成割合(%)					63	57	60	66	71			

表2-2 河川 BODの水域別環境基準達成状況

(BOD測定地点64地点…環境基準地点35地点、補足地点29地点)

地区	類 型 (基準値)	河川名	地 点 名		達 成 水 域 数					R 6 (年平均値) との経年比較※	備 考		
				年 度	2	3	4	5	6				
東 讃	A	馬宿川	川渕橋		○	○	○	○	○	横ばい			
		湊川	湊川橋		×	×	○	○	○	やや下降			
		与田川	三本松橋下		○	○	○	○	○	やや下降			
		津田川	河口潮止上		○	○	○	○	○	下降			
		鴨部川	鴨部川橋		○	×	×	×	○	下降			
	C	番屋川	番屋川大橋		○	○	○	○	○	横ばい			
		弁天川	弁天橋		×	×	×	×	×	横ばい			
高 松	A	香東川(上)	岩崎橋		○	○	○	○	○	横ばい			
		本津川(上)	学校橋		×	×	×	×	×	横ばい			
	B	牟礼川	国道 11 号交差点		×	○	○	○	○	わずかに下降			
		新川	新川橋		×	×	×	×	×	やや下降			
		春日川	春日川橋		×	○	○	×	×	横ばい			
		香東川(下)	香東川橋		○	○	×	×	○	下降			
		本津川(下)	香西新橋		×	×	×	×	×	わずかに下降			
	C	摺鉢谷川	水道橋		○	○	○	○	○	横ばい	～24 年度はE 類型、 25～30 年度はD 類型		
		詰田川	木太大橋		○	○	○	○	○	横ばい	～H24 年度はE 類型、 H25～R4 年度はD 類型		
	D	杣場川	楠上水門		○	○	○	○	○	横ばい	～25 年度はE 類型		
		相引川	大橋		○	×	×	○	○	わずかに上昇			
	E	御坊川	観光橋		○	○	○	○	○	横ばい			
中 讃	A	青海川	青海橋		○	×	○	○	○	横ばい			
		綾川	雲井橋		×	○	×	○	×	わずかに上昇			
		土器川	丸亀橋		×	×	×	○	○	わずかに上昇			
		金倉川	水門橋		×	×	×	×	○	わずかに下降			
		弘田川	潮止水門上		×	×	×	×	×	わずかに上昇			
	B	大束川(上)	富士見橋		×	×	×	×	×	横ばい			
		桜川	金比羅橋		○	○	○	○	○	横ばい			
	C	大束川(下)	新町橋		○	○	○	○	○	横ばい			
	C	西汐入川	塩屋橋		○	○	○	○	×	横ばい	～24 年度はE 類型、 H25～R5 年度はD 類型		
西 讃	A	財田川(上)	祇園橋		○	×	○	×	○	わずかに下降			
	B	高瀬川	詫間町水道取水口		×	×	×	×	×	やや下降			
		財田川(下)	江藤橋		○	○	○	○	○	横ばい			
		柞田川	落合橋		○	○	○	○	○	変動が大きい			
	D	一の谷川	豊橋		○	○	○	○	○	横ばい			
小 豆	B	伝法川	北山浄水場上		○	×	×	○	○	やや下降			
		安田大川	馬木橋		○	○	○	○	○	横ばい			
A (2 mg/L)			1 3			7	5	7	8	1 0	※R 6を基点としてR 2からR 6の経年変化を比較したもの。 ・ R 5～R 6の変化が過年度より大きいもの⇒「上昇、下降」 ・ 過年度変化と同程度であるもの⇒「やや上昇、やや下降」 ・ 過年度変化より小さいもの⇒「わずかに上昇、わずかに下降」 その他、「横ばい」、「変動が大きい」と整理。		
B (3 mg/L)			1 2			6	7	6	6	7			
C (5 mg/L)			～30 年度 3	～5 年度 5	6	3	3	3	4	4			
D (8 mg/L)			～24 年度 2	5	4	3	5	4	4	4			3
E (10 mg/L)			～24 年度 5	1	1	1	1	1	1	1			1
合 計			3 5			2 2	2 0	2 1	2 3	2 5			

表3 海域 CODの環境基準達成状況

類型	水域名	達成状況					R5とR6の 年平均値の比較	R6(年平均値)との 経年比較
		年度	2	3	4	5	6	
A	東讃海域		×	×	×	×	×	横ばい
	備讃瀬戸*		×	×	×	×	×	横ばい
	詰田川尻		×	×	×	×	×	横ばい
	燧灘東部*		×	×	×	×	×	横ばい
B	高松港		○	○	○	○	○	横ばい
	坂出港		○	×	○	○	○	横ばい
	番の州泊地		○	○	○	○	○	横ばい
合計	7		3	2	2	3	3	
環境基準達成割合(%)			43	29	43	43	43	

1. ○は環境基準を達成、×は環境基準を達成していなかったことを示す。
2. 横ばいとは、前年度に比べて濃度の変化が20%未満を、やや改善・やや悪化とはその変化が20%以上30%未満を、改善・悪化とはその変化が30%以上であることとする。
3. *は県際水域（2以上の都道府県の区域に属する公共用水域）で、香川県水域区内で一つの環境基準類型水域とみなし評価している。

表4 海域 全窒素及び全磷の環境基準達成状況

類型	水域名		全窒素の達成状況					全燐の達成状況				
		年度	2	3	4	5	6	2	3	4	5	6
Ⅱ	東讃海域		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	備讃瀬戸(イ)＊		○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
	備讃瀬戸(ハ)＊		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	燧灘東部＊		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計	4		4	4	4	4	4	3	3	4	4	4
環境基準達成割合（％）			100	100	100	100	100	75	100	100	100	100

表5 海域 水生生物保全項目の環境基準達成状況

類型	水 域 名	達 成 状 況				
		年度	2	3	4	5
生物 A	備 讃 瀬 戸 (全 域) *	○	○	○	○	○
	燧 灘 東 部 (全 域) *	○	○	○	○	○
生物 特A	備 讃 瀬 戸 (イ) *	○	○	○	○	○
	燧 灘 東 部 (イ) *	○	○	○	○	○
	燧 灘 東 部 (ロ)	○	○	○	○	○
合計	5	5	5	5	5	5
環境基準達成割合 (%)		100	100	100	100	100

(表-4、表-5 注)

1. ○は環境基準を達成、×は環境基準を達成していなかったことを示す。
2. 県際水域(*)については、香川県水域区内で一つの環境基準類型水域とみなし評価している。

表 6 河川及び海 域 大腸菌数の環境基準達成状況（基準達成地点数/環境基準点数）

類型		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
河川	A 類型	5/13	6/13	6/13
	B 類型	8/12	10/12	10/12
海域	A 類型	18/26	23/26	24/26

3 対策

河川や海域の水質を保全するため、第 9 次総量削減計画に基づき、COD や窒素・リンの削減に総合的、計画的に取り組んでいます。

- 工場・事業場については、排水基準を遵守するよう規制・指導を徹底しています。
- 生活排水については、下水道や合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備を計画的に進めています。
- 農畜産業の排水対策については、化学肥料の施用量の低減や家畜排せつ物の処理・適正利用を指導しています。

II 地下水

1 概況調査

県内の地下水の水質の状況を把握するため 14 地点で調査を行い、ふっ素が 1 地点で地下水の水質汚濁に係る環境基準を超過していました。

2 継続監視調査

地下水はいったん汚染されると浄化に長期間を要することから、過去の調査で汚染が確認又は汚染が懸念される 27 地点で継続的な監視を行ったところ、6 地点で環境基準を超過しました。

環境基準を超過した項目ごとにみると、排水基準が設定される以前の事業場排水が原因と考えられるテトラクロロエチレンなど揮発性有機化合物が 1 地点（前年度 1 地点）、施肥や家畜排せつ物等が汚染原因と考えられる硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が 2 地点（前年度 2 地点）、主に自然的要因によるものと考えられるふっ素が 3 地点（前年度 3 地点）、ほう素が 1 地点（前年度 1 地点）でした。なお、当該井戸水は飲用には用いられていません。

3 対策

地下水の水質を保全するため、工場、事業場からの有害物質を含む水の排出・地下浸透の規制、農地における化学肥料の施用量の低減や畜産業における家畜排せつ物の処理・適正利用の指導を行っています。

また、汚染実態の把握に努め、汚染が判明した場合には、事業者には汚染物質の除去等の浄化対策を指導するとともに、市町と協力して、井戸設置者に対し井戸水を飲用に用いないよう衛生指導しています。

表7 地下水調査結果

概況調査

(単位: mg/L)

調 査 項 目	調 査 地点数	検 出 地点数	環 境 基 準 超過地点数	検出範囲 (単位: mg/L)	環境基準値
カドミウム	4	0	0	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	2	0	0	ND (<0.1)	検出されないこと
鉛	8	0	0	<0.005	0.01mg/L 以下
六価クロム	9	0	0	<0.02	0.02mg/L 以下
砒素	7	0	0	<0.005	0.01mg/L 以下
総水銀	7	0	0	<0.0005	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	—	—	—	—	検出されないこと
P C B	2	0	0	ND (<0.0005)	検出されないこと
ジクロロメタン	7	0	0	<0.002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	8	0	0	<0.0002	0.002mg/L 以下
クロロエチレン	3	0	0	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	7	0	0	<0.0004	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	10	0	0	<0.002	0.1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	10	0	0	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	8	0	0	<0.001	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	7	0	0	<0.0006	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	10	0	0	<0.001	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	9	1	0	<0.001~0.003	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	7	0	0	<0.0002	0.002mg/L 以下
チウラム	1	0	0	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	1	0	0	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	1	0	0	<0.002	0.02mg/L 以下
ベンゼン	7	0	0	<0.001	0.01mg/L 以下
セレン	1	0	0	<0.002	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	9	9	0	0.05~6.6	10mg/L 以下
ふっ素	7	6	1	<0.08~1.1	0.8mg/L 以下
ほう素	8	2	0	<0.1~0.2	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	1	0	0	<0.005	0.05mg/L 以下

継続監視調査

(単位: mg/L)

調 査 物 質	調 査 地点数	検 出 地点数	環 境 基 準 超過地点数	濃度範囲	環境基準値
クロロエチレン	3	0	0	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	4	0	0	<0.002	0.1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	4	1	0	<0.004~0.039	0.04mg/L 以下
トリクロロエチレン	6	2	1	<0.0005~0.026	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	6	3	1	<0.0005~0.25	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	18	18	2	0.27~21	10mg/L 以下
ふっ素	4	4	3	0.55~10	0.8mg/L 以下
ほう素	1	1	1	1.6	1mg/L 以下